高橋 美博 議員

中東遠総合医療センターの利用状況は

問 袋井市民の利用が少ないと思えるがどうか。

答 入院患者の割合は、袋井市26％、掛川市58％、菊川市6％、御前崎市3％、外来患者は袋井市27％、掛川市56％、菊川市6％、御前崎市3％である。本市の外来患者数は想定を下回っているが、これは旧袋井市民病院閉院時に患者受け入れを開業医にお願いした経緯や、市北部にとって病院が遠くなったことが要因と考える。

問 診療科別や紹介率などの分析が必要ではないか。

答 入院の外科系では、整形外科13％、消化器や血管外科11％、脳神経外科9％、内科系では、血液内科や透析10％、消化器内科10％、循環器内科8％である。

紹介患者の割合は袋井市民24％、掛川市民59％である。

開院後、半年経過した中東遠総合医療センター

問 利用の見通しと利用増への取り組みはどうか。

答 旧病院の実績からすれば、今後患者数は増加していくものと考えている。医師会との意見交換会を開催したり、院長・副院長が市内の開業医を訪問し、連携強化を図るなど、地域連携の推進に努めたい。また、「断らない救急」の継続についても努めていきたい。

兼子 春治 議員

新東名を活かしたまちづくりを

問 新東名への対応は自治体間競争の真価を問われるものである。新東名開通に伴い、県の内陸のフロンティアを拓く取り組みに呼応し、磐田スマートインターチェンジの設置や、掛川・磐田・浜松市の工業団地造成の動きに対し、本市も攻めの姿勢が必要と考える。袋井商工会議所の内陸フロンティア構想提言書をどう活かすのか。

答 宇刈から森掛川インターチェンジにつながる道路や、市の中央を横断する広域横軸幹線道路の整備及びその沿線や三川地区の土地利用構想の提言をいただいた。これらは長期的な視野の中で検討し、まずは森町袋井インター通り線の県道昇格と、山科東工業団地等既存の工業用地への企業誘致を積極的に進めていきたい。

中東遠の中核都市づくりを

問 総合体育館・野球場の建設構想を県のスポーツ産業創出支援事業やスポーツメッカ構想等に乗せ、中核都市にふさわしい施設として建設すべきでは。

答 東京オリンピック開催も決定し、スポーツ産業がより発展する。ここがスポーツに適した地域となり得るよう体育館整備を考えていきたい。

新東名　森掛川IC